



のびのび若っ子

倒木更新

校長 池田 千穂

毎日蒸し暑い日が続き、梅雨明けが待ち遠しいです。夏休みまで1か月をきりました。夏休みは長い休みを利用して子ども達がゆっくりとじっくりと、何かに取り組むことができるといいです。

さて、本校の前半は宿泊行事が続きます。まずは、6月4日から1泊で日光修学旅行に行っていました。6年生にとって思い出に残る大切な行事です。6年生は最高学年らしく自主的に自分たちで行程を進め、役割を果たして動いていました。今年度は、戦場ヶ原のハイキングや東照宮見学には現地のガイドさんが一緒に案内して説明してくれました。戦場ヶ原ハイキングのガイドさんはグループ毎について、丁寧に、その都度子ども達の質問に答えてくれました。日頃から地域の方々と関わり、ご支援いただいているからでしょうか、子ども達はシニアガイドさん達と自然に関わって、お話も興味深く聞き、いろいろな質問もしました。普段、関わることのない方たちからお話を聞くことは子ども達にとって貴重な経験になったと思います。



戦場ヶ原には、季節の花々が咲き大変美しかったです。たくさんの鳥の声もしました。中でもカッコウの声が耳に残っています。そして蝉なのか蛙なのかというちょっと耳障りな声はエゾハルゼミというそうですが、大きな声を響かせていました。ガイドさんの話で最も心に残ったのは、あちこちに見られる倒木の話です。倒木たちは美しい緑のコケをつけ、新しい幼木を生やしていました。ガイドさんは「あの倒れた木の上に新しい木が育つんだよ。」と話してくれました。

それは『倒木更新』と言うそうです。倒れた古木を礎にして、新しい木が育つことです。倒木は下草の上に倒れているので、倒木の上に芽を出せば、そこには日光が当たるようになります。新芽が太陽の光を浴びることができる。また、地面で発芽すると、土壌菌などで病気にもなりやすいけれど倒木の上ならそのリスクも低い。そして倒木自体が養分を提供し、コケが水分を保っている。このことを知り、なんだか木も人と同じように、とても大切に子どもを育てているように感じました。

それから、木の根の部分が地面から出て、空洞ができていく木もいくつか目にしました。それは、倒木更新により、大きく育った根のところにあった古木が役目を終えて朽ちて無くなった、そこに倒木があった証拠だということです。木が倒れてからコケが生えるのに20年。そこに落ちた種が10センチ位になるまでに3年。30センチになるまでにさらに30年。そして親木になるのに300年。途方もない木の成長と歴史、時の流れ、でも静かに行われている倒木更新。

私たちも日々子ども達の成長を願い、しっかりと寄り添って支援してまいります。地域の皆様、学校が夏休みの間もご支援よろしく願いいたします。保護者の皆様、どうぞ体調に気をつけて、子ども達が楽しく夏休みを過ごし、また元気に登校します日を教職員一同お待ちしております。

若葉台小学校学校教育目標

『自他共に大切に作る心を育みます』『意欲的な学びの芽を育みます』